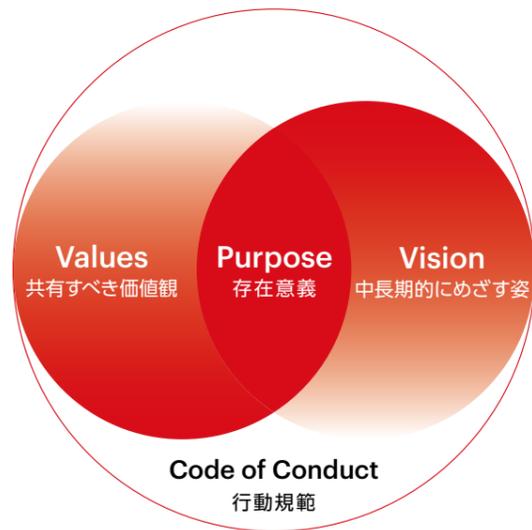


MUFG Report 2022

ディスクロージャー誌 2022 本編
統合報告書

What's MUFG Way

MUFG Wayは、MUFGグループが経営活動を遂行するにあたっての最も基本的な姿勢であり、全ての活動の指針とするものです。経営戦略や経営計画の策定など、経営の意思決定のよりどころとし、また、全社員の精神的支柱として、諸活動の基本方針とします。



存在意義
Purpose

世界が進むチカラになる。

変化の速い時代、全てのステークホルダーが課題を乗り越え、持続可能な未来、新たなステージへと進もうとしています。その思いを叶えるチカラになること、そのために全力を尽くすこと。これが未来に向けて変わらない MUFG の存在意義です。

共有すべき価値観
Values

不変の価値観である「信頼・信用」に加え、「プロフェッショナリズムとチームワーク」、「成長と挑戦」を大切にします。

中長期的にめざす姿
Vision

全てのステークホルダーが持続可能な未来、新たなステージへと進むチカラになることで、真に社会から必要とされる、「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」をめざします。



地域・社会のチカラに

安心・安全なプラットフォームとイノベーションで、強くしなやかな地域・社会を築き取り組みに参画します。



お客さま・パートナーのチカラに

デジタルの活用と金融ソリューションで、お客さまの豊かな生活、人生のチャレンジを応援します。



未来の世代のチカラに

社会課題と向き合い、人と地球が調和し共生する社会づくりに貢献します。

世界が進むチカラになる。

全てのステークホルダーの課題を起点とした戦略立案・遂行により、その解決に取り組みます。



株主・投資家のチカラに

当社のサステナビリティと企業価値を持続的に高め、その期待に応えます。



MUFGの仲間のチカラに

多様性が尊重され、共に輝き成長できる場と機会を用意していきます。

目次

MUFG Way 目次	1 3
マネジメントメッセージ	
CEOメッセージ	5
	
CFOメッセージ	15
	
CSuOメッセージ	23
	
サステナビリティ経営と優先10課題 機会とリスクへの対応	25 27
MUFGの価値創造	
価値創造プロセス	31
社会の変化に対応してきた歩み	33
「MUFGならではの」強み	35
7事業本部による価値創造の推進	37
価値創造の実績(財務・非財務ハイライト)	39
ステークホルダーへの価値提供	41

経営戦略とパフォーマンス	
中期経営計画	
中期経営計画の振り返り	45
中期経営計画の進捗	47
構造改革	49
FOCUS Mars Growth Capital の挑戦	50
企業変革	
デジタルトランスフォーメーション	51
FOCUS 印鑑票ペーパーレス化への挑戦	52
FOCUS Money Canvas の開発	53
FOCUS Biz Forward の設立	54
環境・社会課題解決への貢献	55
FOCUS NZBA でのリーダーシップ	56
FOCUS サステナブルビジネスの推進	58
気候変動への対応・環境保全 (TCFD 提言に基づく開示)	59
カルチャー改革/人材戦略 CHRO メッセージ	65
	
インクルージョン&ダイバーシティ座談会	67
	

FOCUS 社内副業「認定講師」	69
FOCUS デジタル中核人材育成「DEEP研修」	70
挑戦する社員たちの座談会	73
	
事業本部別戦略	
事業本部別業績	77
デジタルサービス事業本部	79
法人・リテール事業本部	81
コーポレートバンキング事業本部	83
グローバルコマースバンキング事業本部	85
受託財産事業本部	87
グローバルCIB事業本部	89
市場事業本部	91

リーダーシップとガバナンス	
社外取締役と機関投資家の対話	95
	
コーポレート・ガバナンス	97
リスク管理	109
サイバーセキュリティ	113
コンプライアンス	115
内部監査	118
お客さま本位の取り組み	119
人権尊重への取り組み	120
財務情報・会社情報	
11年間の主要財務データ	121
2021年度決算の概要	123
連結財務諸表等	127
ESG評価・イニシアティブへの参画	131
競合他社比較	133
会社情報	134

「MUFG Report 2022 統合報告書」をお手に取っていただきありがとうございます。

MUFGは「世界が進むチカラになる。」というパーパスのもと、持続的な価値創造に取り組んでいます。昨年の統合報告書では、環境変化の中でビジネスモデル変革を加速させる必要性和、その実現に向けた新しい中期経営計画についてご説明しました。今年はその取り組みの進捗をご報告するとともに、ステークホルダーの皆さまとの対話の中でいただいたご意見等を踏まえ、MUFGの活動をより手触り感を持ってご理解いただけるよう、具体的な内容を充実させました。

私は本レポートの制作責任を担うIR担当役員として、本レポートが経営陣の関与と各部署の連携により誠実に作成され、その記載内容が正確であることを表明します。

本レポートがステークホルダーの皆さまにとって、MUFGをご理解いただく際の一助となれば幸いです。今後も皆さまとの対話を通じた気づきや学びを大切に、開示の充実と透明性の向上を図っていきたくと考えておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければと思います。

代表執行役専務 グループCFO **米花 哲也**



編集方針

MUFGは、投資家を中心としたステークホルダーの皆さまに当社の持続的な価値創造に向けた取り組みをご理解いただくために「MUFG Report 2022 統合報告書」を作成いたしました。編集にあたってはValue Reporting Foundation(VRF)が提示するフレームワークや、経済産業省が提唱する価値協創ガイダンスなどを参照しています。

なお、詳細な財務データ等は、「MUFG Report 2022 資料編」を、サステナビリティへの取り組みの詳細情報は「MUFG サステナビリティレポート 2022 (9月以降発行予定)」をご覧ください。



報告対象期間

2021年4月1日～2022年3月31日
(2022年7月までの内容を含みます)

見通しに関する注意事項

本レポートには、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループおよびそのグループ会社に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本レポートの作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述または前提(仮定)は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。なお、本レポートにおける将来情報に関する記述は上記のとおり本レポートの作成時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有していません。また、本レポートに記載されている当グループ以外の企業等に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っており、また、これを保証するものではありません。なお、本レポートの数値は日本会計基準ベースのものであります。

本レポートにおける表記の定義

持株：三菱UFJフィナンシャル・グループ
銀行：三菱UFJ銀行
信託：三菱UFJ信託銀行
証券：三菱UFJ証券ホールディングスおよびその子会社
MUMSS：三菱UFJモルガン・スタンレー証券
ニコス：三菱UFJニコス
MUAH：MUFG Americas Holdings Corporation
クルンシィ(アユタヤ銀行)：Bank of Ayudhya Public Company Limited
ダナモン銀行：PT Bank Danamon Indonesia, Tbk.
FSI：First Sentier Investors Holdings Pty Ltd
AM：アセットマネジメント(資産運用)
IS：インベスターサービス(資産管理)
親会社株主純利益：親会社株主に帰属する当期純利益